

(電子メール施行)
農技第1546号
令和5年8月8日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和5年度病虫害発生予報第4号を發表します。

令和5年度病虫害発生予報 第4号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
水稻	いもち病(穂いもち)	平年並	やや少(葉いもち)
	紋枯病	平年並	やや少
	もみ枯細菌病	平年並	—
	内穎褐変病	平年並	—
	セジロウンカ	やや少	やや少
	トビイロウンカ	やや少	少
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	ツマグロヨコバイ	やや多	平年並
	斑点米カメムシ類	やや多	平年並
	イネツトムシ	やや少	やや少
	コブノメイガ	やや少	やや少
大豆	紫斑病	やや少	少
	立枯性病害(白絹病)	平年並	やや少
	べと病	やや少	やや少
	葉焼病	やや少	少
	茎疫病	平年並	やや少
	ハスモンヨトウ	やや多	少
	ハダニ類	やや少	少
	吸実性カメムシ類	平年並	やや少
なし(青なし)	黒斑病	やや多	やや多
	黒星病	やや少	少
野菜共通	ヨトウガ	やや多	平年並
	ハスモンヨトウ	やや多	平年並
	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多
	オオタバコガ	平年並	やや少
	ハイマダラノメイガ	やや多	平年並
果樹共通	果樹カメムシ類	平年並	やや少

太文字の病虫害：向こう1か月の間、発生状況に特に注意を要する病虫害を示す。

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報
(8月5日から9月4日までの天候見通し)

令和5年8月3日
大阪管区気象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報 (08/05~09/04)		
2023年08月03日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	近畿日本海側では、期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。	
向こう1か月 08/05~09/04	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 08/05~08/11	気温	1週目は、高い確率70%です。
2週目 08/12~08/18	気温	2週目は、高い確率60%です。
3~4週目 08/19~09/01	気温	3~4週目は、高い確率50%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 08/05~09/04	10% (低い) 20% (平年並) 70% (高い)
		1週目 08/05~08/11	10% (低い) 20% (平年並) 70% (高い)
		2週目 08/12~08/18	10% (低い) 30% (平年並) 60% (高い)
		3~4週目 08/19~09/01	20% (低い) 30% (平年並) 50% (高い)
降水量	近畿太平洋側	向こう1か月 08/05~09/04	20% (低い) 40% (平年並) 40% (高い)
	近畿日本海側	向こう1か月 08/05~09/04	30% (低い) 30% (平年並) 40% (高い)
日照時間	近畿地方	向こう1か月 08/05~09/04	40% (低い) 30% (平年並) 30% (高い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

予報根拠中の記号

- (+) : 発生量を多くする要因
- (-) : 発生量を少なくする要因
- (±) : 発生量が平年並になる要因

水稻

1 【いもち病】 (穂いもち)

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 葉いもちはやや少 (-)
気象予報 気温は高い (-)
降水量は平年並～多い (+)

2 【紋枯病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 やや少 (-)
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～多い (+)

3 【もみ枯細菌病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 ー
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～多い (+)

4 【内穎褐変病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 ー
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～多い (+)

5 【セジロウンカ】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 やや少 (-)
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～多い (+)

6 【トビイロウンカ】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 少（－） 本田及び予察灯では発生を認めていない
気象予報 気温は高い（＋）
降水量は平年並～多い（±）

7 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
気象予報 気温は高い（＋）
降水量は平年並～多い（±）

(3) 防除上の留意点

- ア 本種はイネ縞葉枯病を媒介する。現在、発病株が目立つ圃場ではウイルス保毒率が増加し、翌年の多発につながるおそれがあるため、今後の基幹防除や収穫後の耕うん等で、本種の密度を下げておくことが重要である。
- イ 本田におけるイネ縞葉枯病の初期発病株(葉色が薄くなり巻いて垂れ下がる「ゆうれい症状」を表す)は、後期発病（出穂異常）の増加につながるため、速やかに抜き取る。
- ウ 今年度の第1世代虫（コムギ採集個体）のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については、兵庫県病害虫防除所HPを参考にすること
(<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/868>)。
- エ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

8 【ツマグロヨコバイ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
気象予報 気温は高い（＋）
降水量は平年並～多い（±）

(3) 防除上の留意点

- ア 多発すると、茎葉の退色やすずす病の発生など被害が生じることがあるので、適期に防除を行う。
- イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

9 【斑点米カメムシ類】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
気象予報 気温は高い（＋）
降水量は平年並～多い（±）

(3) 防除上の留意点

ア 出穂期までに生息場所である圃場周辺(畦畔等)の除草を行い、生息密度の低下を図ること。ただし、出穂直前と出穂後の畦畔除草は、水田へのカメムシ類の侵入を助長するため避けること。

イ 薬剤散布は出穂期以降に実施すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

エ イネカメムシについては予察灯の誘殺は増加しており、被害のリスクがある。詳細については令和5年度病害虫発生予察防除情報第5号(令和5年8月8日発出)を参考とすること

(<https://bo.jo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/904>)。

10 【イネツトムシ】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 やや少 (－)
 気象予報 気温は高い (+)
 降水量は平年並～多い (±)

11 【コブノメイガ】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 やや少 (－)
 気象予報 気温は高い (±)
 降水量は平年並～多い (±)

大豆

1 【紫斑病】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 少 (－)
 気象予報 気温は高い (+)
 降水量は平年並～多い (+)

2 【立枯性病害】 (白絹病)

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 やや少 (－)
 気象予報 気温は高い (+)
 降水量は平年並～多い (+)

3 【べと病】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 やや少（－）
気象予報 気温は高い（＋）
降水量は平年並～多い（＋）

4 【葉焼病】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 少（－）
気象予報 気温は高い（＋）
降水量は平年並～多い（＋）

5 【茎疫病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 やや少（－）
気象予報 気温は高い（＋）
降水量は平年並～多い（＋）
- (3) その他
本病害は土壌中の病原体が水媒伝染により感染するため、畝間灌水を行う際には長期間湛水状態にしないよう注意する。

6 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 少（－） ほ場での発生は認められていない
気象予報 気温は高い（＋）
降水量は平年並～多い（±）

*フェロモントラップへの誘殺数は平年並（±）であり、本種が野菜類の共通害虫としてこれから最盛期を迎えることから予想はやや多としている。

- (3) 防除上の留意点
 - ア 本種の幼虫は大豆をはじめ、ピーマン、ナス、キャベツ、レタスなど多くの野菜類を加害する。
 - イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたら、すみやかに捕殺する。
 - ウ 中齢以降の幼虫には薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
 - エ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

7 【吸蜜性カメムシ類】（ミナミアオカメムシ、アオクサカメムシ等）

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 やや少（－）
気象予報 気温は高い（＋）
降水量は平年並～多い（±）

なし（青なし）

1 【黒斑病】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 **やや多** (+)
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～多い (+)
- (3) 防除上の留意点
- ア 薬剤散布時は、薬液が十分かかるように留意する。
 - イ 耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。
 - ウ 園地を定期的に見回り、落下した果実・罹病葉は園外に持ち出し処分する。
 - エ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。
 - オ その他詳細については令和5年度病害虫発生予察防除情報第3号（令和5年6月22日発出）を参考とすること (<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/770>)。

2 【黒星病】

- (1) 予想：発生量 やや少
- (2) 根拠：発生現況 少 (-)
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～多い (+)

野菜共通

1 【ヨトウガ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 現在本種は夏季の休眠状態にあるが春季における成虫のフェロモントラップへの誘殺数は平年並 (±)
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～多い (±)
- (3) 防除上の留意点
- ア 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたら、すみやかに捕殺する。
 - イ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるため、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
 - ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

2 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は平年並 (±)
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～多い (±)

(3) 防除上の留意点

- ア 本種の幼虫は、ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。
- イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたら、すみやかに捕殺する。
- ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるため、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- エ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

3 【シロイチモジヨトウ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 葉ネギ圃場における幼虫発生量は**やや多**（+）
フェロモントラップへの誘殺数は平年並～やや多（±）
気象予報 気温は高い（+）
降水量は平年並～多い（±）
- (3) 防除上の留意点
 - ア 本種の加害植物は、ネギ、キャベツ、ピーマン、ナス、レタスをはじめ多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。
 - イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。
 - ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針、防除情報等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

4 【オオタバコガ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数はやや少（-）
（クレオメ（次稿ハイマダラノメイガを参照）で幼虫の発生は認められている）
気象予報 気温は高い（+）
降水量は平年並～多い（±）

5 【ハイマダラノメイガ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 誘致植物*（クレオメ）での発生量は平年並（±）
気象予報 気温は高い（+）
降水量は平年並～多い（±）

*対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調査するために用いられる。

- (3) 防除上の留意点
 - ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。
 - イ 幼虫が生長点を食害するため、発生を確認してからの防除では手遅れとなるため、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。

- ウ 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の被害発生に注意する。天候等の条件により期待した防除効果が得られないこともあるので、本圃での薬剤防除の準備をしておくことが望ましい。
- エ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること。

果樹共通

1 【果樹カメムシ類】(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ等)

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 やや少 (－)
 気象予報 気温は高い (+)
 降水量は平年並～多い (±)
- (3) その他
 広食性であるミナミアオカメムシの予察灯への誘殺がやや多いことから、園地の見回りを実施し、発生や被害を認めたら速やかな防除が必要である。

* この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載
(<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>)

病害虫・雑草防除指導指針は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

病害虫・雑草防除指導指針 参考資料は以下のURLから

「参考資料」を選択して下さい。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/hyogo>

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」X(旧Twitter)を開設しています。
発生予察情報など病害虫に関する情報を提供しますので、是非フォローお願いします。

Xアカウント(https://twitter.com/hyogo_boujoshu)

